

学会集会に参加される方へのご案内

■ 総合案内 ■

会場：	開智国際大学 1号館 2階 208教室（千葉県柏市柏1225-6）
受付開始：	11月24日（土）12：30
開会：	11月24日（土）13：00
参加費：	会員 2,500円 / 非会員 3,000円 / 学生 1,000円 （当日受付にてお支払い下さい）
総会：	12：40 ～ 12：55（1号館 2階 208教室）
パネル・ディスカッション：	13：05 ～ 14：40
ポスター発表：	14：50 ～ 15：50
第12回学術集会事務局：	開智国際大学教育学部 寺本研究室 E-mail: jaih@kaichi.ac.jp https://www.jaih.org/

■ ポスター発表者の方へ ■

- ① ポスターは指定された場所に掲示してください。ポスター掲示範囲は、横 90cm×縦 180cm 以内が適当です。
- ② ポスターは 12：00～12：30 までに掲示を終了してください。ポスター掲示に必要な文房具等は各自でご準備をお願い致します。
- ③ ポスターの掲示時間は、12：30～16：00 です。ポスター発表者は 14：50～15：50 の時間帯は、掲示物のそばで質疑に応じられるようにして下さい。このことにより正式発表とみなされます。

■ 役員会 ■

理事・評議員会：	11月24日（土）11：00～12：20 1号館 2階 209教室
----------	--------------------------------------

周辺地図・アクセス

JR 常磐線・東武野田線「柏」駅 より

中央改札を出て、東口から徒歩約 20 分

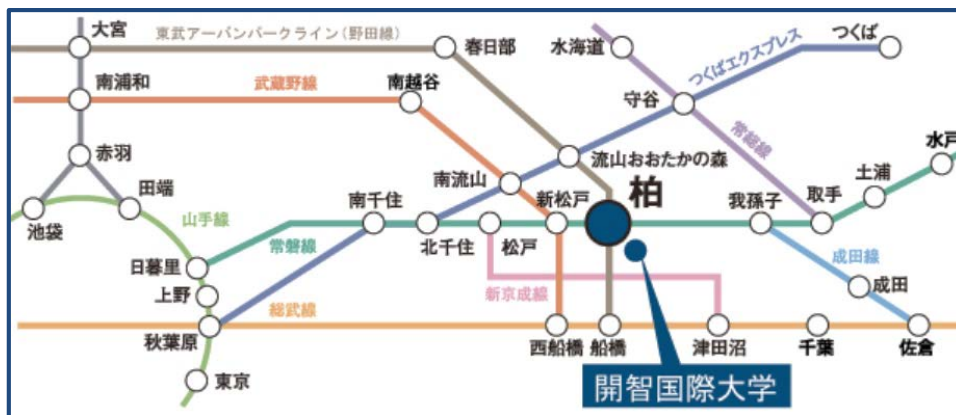
東口バスのりばから、阪東バス「戸張」行き(4 番乗場) 乗車約 10 分、「柏学園前」下車、徒歩 3 分



柏駅までのアクセス

JR 常磐線「柏」 「上野」から快速約 30 分、特別快速約 25 分 / 「土浦」から快速約 40 分)

東武野田線「柏」 「大宮」から約 60 分 / 「船橋」から約 30 分



詳しい情報は、開智国際大学 HP で (<http://www.kaichi.ac.jp/examination/access/>)

プログラム

12:40 ~ 12:55 【 総会 】

13:00 ~ 13:05 【 開会のあいさつ 】 会長：寺本妙子

13:05 ~ 14:40 【 パネル・ディスカッション 】 ファシリテーター：寺本妙子

地域における子ども支援 —多職種連携の新しいかたち—

話題提供 寺本妙子 (開智国際大学教育学部教授：臨床発達心理士)
高木絹代 (柏市子ども部長：保健師)
杉本祥子 (柏市教育委員会指導主事：精神保健福祉士)
指定討論 岡光基子 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科准教授：看護師)

14:50 ~ 15:50 【 一般演題 (ポスター発表) 】

P-1 ファミリーパートナーシップ講習会を受講した看護職による育児相談の効果 — 小児科外来における育児相談を利用した母親による評価の比較 —

北海道医療大学	三国久美
日本医療大学	草薙美穂
札幌保健医療大学	澤田優美
	齋藤早香枝
東京医科歯科大学	岡光基子
	矢郷哲志
東京有明医療大学	廣瀬たい子
東京医科歯科大学	大久保功子

P-2 相互作用を重視した食事の援助行為における教育プログラムの効果 — 重症心身障害児(者)施設のケアスタッフの行動評価 —

北海道医療大学	木浪智佳子
---------	-------

P-3 発達障害の傾向のある母親への育児支援：特性に配慮した支援についての検討

東京医科歯科大学/どんぐり発達クリニック	野村智実
東京医科歯科大学	岡光基子
東京医科歯科大学	矢郷哲志
どんぐり発達クリニック	宮尾益知

15 : 55 ~ 16 : 00 【 閉会のあいさつ 】 会長 : 寺本妙子

【 パネル・ディスカッション 】

地域における子ども支援

— 多職種連携の新しいかたち —

話題提供：寺本妙子（開智国際大学教育学部教授）

● 学校教育における子どもの支援

【概要】 新学習指導要領では、子どもの発達の理解・指導・支援とならんで、子どもの学習面での困難や生活面での困難への理解と対応が求められている。子ども自身の個人的要因（発達、学力、心身の状態等）や子どもを取りまく環境的要因（家庭環境、社会経済的環境）への理解と対応は、「特別な教育的ニーズ」という広義の概念で捉えられ、教育現場でもその対応が必要とされている。従来の特別支援教育で扱われてきた、障害や疾病という狭義の捉え方からの転換が求められているのである。

平成 31 年度から開設される教職課程においては、このような新しい内容を反映した教員養成カリキュラムが開始される。このような背景とも関連し、子どもと家族の問題・課題に対するアプローチのひとつとして、開智国際大学教育学部の研究プロジェクトを紹介する。「支援を要する」子どもへの対応を包摂した教師教育カリキュラム（教職課程カリキュラム・現職研修カリキュラム）のあり方を検討するプロジェクトであるが、柏市子ども部における取組みや柏市教育委員会の取組みとも関連する試みと捉えられる。教師教育というテーマでの研究を基盤とし、地域での子どもの支援における多職種連携のかたちを考える契機として話題提供したい。

話題提供：高木絹代（柏市こども部長）

● 柏市の子育て支援

【概要】 柏市の保健師として、公衆衛生の母子保健・地域保健や児童福祉・介護保険分野等を経験してきた。なかでも母子保健や児童福祉に携わることが多く、ケース支援や各種市民サービス事業の実施において、多くの機関や多職種の方の協力を得て連携し取り組んでいる。私たちが支援をしている子どもや家庭等は、さまざまな課題や困難等を抱えているケースが少なくない。支援者である私たちも、一人で多くのことを抱えて悩むことがある。支援者であっても、支援がほしいと思いつつながら奔走している。

柏市では、虐待等の要保護児童や保護者の養育を支援することが特に必要な要支援児童等は、適切な保護・支援を図るため、関係機関がその子ども等に関する情報や考え方を共有し、適切な連携の下で対応する必要があることから、児童福祉法に基づく「要保護児童対策地域協議会」を平成 18 年に設置した。しかし、連携が大切なことは十分に理解しているものの、実際どここの誰とつながるのか、どこまで情報共有してよいのか、子どもを支援する保健・医療・福祉・教育・地域等のさまざまな分野の方と連携することは難しいこともたくさんある。ケース検討会議で多職種が多く集まるほどよい結果につながるが、途中は大変であり事前準備・調整も大変である。

このパネル・ディスカッションでは、要保護児童対策地域協議会での実際の連携状況等や繋がる際のポイント等についてお話をさせていただく。そして、子どもや家庭・支援者にとり、新たなよりよい多職種連携について考えたい。

話題提供：杉本祥子（柏市教育委員会指導主事）

● 学校現場における福祉の視点

【概要】平成29年1月に、文部科学省の教育相談等に関する調査研究協力者会議より出された「児童生徒の教育相談の充実について（報告）」の中で、スクールソーシャルワーカー（以下SSWe r）は「福祉の専門性を有する者」と明文化された。併せて同年4月の「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、SSWe rが正式に法令に位置づけられた。

現在、学校現場には、いじめや不登校など様々な課題が山積している。また、児童虐待の増加、居所不明児童等子どもを取り巻く問題が深刻化しており、子どもの貧困や家庭の孤立が関係している例が少なくない。このような環境に置かれている子どもたちは、マズローの欲求階層説における生理的欲求や安全の欲求が十分に満たされていないため、本来学校が目指している尊敬の欲求や自己実現の欲求をもつことが困難だと考えられる。このことから、子どもたちが一日の大半を過ごす学校現場において、福祉の視点を浸透させることが重要であると言える。これまで学校教育と福祉については、連携や協働が十分ではなかった。しかし、SSWe rが学校現場に入ることにより、学校教育と福祉の架け橋となることが期待される。

今後は、SSWe rによるアウトリーチ型の支援により、貧困や孤立の早期発見・早期対応や多様な機関で協働して支援していくための仕組みを作ること、また教職課程や教員研修の中に福祉に関する内容を位置づけていくことが必要ではないだろうか。

指定討論：岡光基子（東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科准教授）

● 親子の関係性支援における多職種連携と地域づくり

【概要】平成29年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数は133,778件であり、過去最多となっている。児童虐待に至る背景には、世代間連鎖のように親自身が生育歴に複雑な問題を抱えていることが多い。そのような中で、専門職者は親に対して指示的・教育的に関わろうとして関係に困難を生じることがあり、親は支援を拒否することに繋がってしまう。これにより、支援ニーズの高い親子が孤立することになり、必要な支援が行き届かない状況が起こっている。親子の関係性や愛着の障害は、子どもの情緒や行動上の問題などその後の発達に影響を及ぼすといわれている。地域においては子育て世代包括支援センターの整備や特定妊婦への支援が導入され、効果的な育児支援プログラムの確立が求められている。こうした背景を踏まえ、英国で開発された、親と専門職者とのパートナーシップ形成に基づいた育児支援プログラムを紹介する。この産前産後の育児支援プログラムの特徴は強みに着目した実践であり、問題やリスクが強調されたアプローチよりも、子どもの発達の促進などの効果が検証されている。また、親のエンパワーメントを促進するプログラムでは、親としての自身を振り返り、子どもの行動や感情への理解を促し、効果的な養育へと導くことを目的としている。地域のソーシャルキャピタルを活用し、親同士がピアサポートの繋がりの中で潜在的な力を引き出していくものである。わが国でも、妊娠期からの親子の関係性支援における質の向上を目指し、科学的根拠に基づいたアプローチ

法を確立することが求められる。また、地域において親子の健全な成長発達を支える、新たな多職種連携の在り方を検討することが重要である。